

塘研究室現地調査報告 7

裏磐梯における今年最初の現地調査を1月26日に実施しました。参加者は3年生2人と教員の計3名でした。昨年末にプロジェクトでは安定同位体比質量分析装置一式を導入しましたが、私たちの研究室ではそれを使って裏磐梯地域に分布する水生生物の食性（と食物網）を調べる計画です。今回はそのトレーニング用試料の採集が目的でした。裏磐梯は一面の銀世界、桧原湖上ではワカサギ釣りのカラフルなテントが多数見られる中、長井川、吾妻川、長瀬川の3河川で水生生物の採集を行ってきました。また、裏磐梯からの帰りには国道115号沿いを流れる酸性河川、酸川でも水生生物の採集をしました。

気温は何とか0℃を保っていましたが、途中から雪にもかなり降られ、風も時々吹きましたので、体感温度はかなり低く、厳しい調査となりました。水温も流入河川の長井川と吾妻川では約2℃ありましたが、流出河川の長瀬川では0.7℃と素手では水を触れない状態でした。とはいえ、3年生の頑張りで、十分な数のサンプルを確保することができました。下の写真で彼らの頑張りをご覧ください。ちなみに酸川の水温は約5℃でした。

裏磐梯の長井川と吾妻川では川岸の積雪上をユキクロカワゲラが歩き回っていました。ユキクロカワゲラは積雪期にだけ成虫が出現する無翅のカワゲラ類です。裏磐梯の河川ではカゲロウ類やカワゲラ類を中心に、様々な水生生物を採集しました。一方、酸性河川である酸川は生息する生物が限られており、今回もオナシカワゲラ類の個体数が圧倒的で、それ以外にはナガレトビケラの仲間、ミヤマイトビケラの仲間、キタガミトビケラ、センブリの仲間、そしてチャイロシマチビゲンゴロウ、流水性のクロマメゲンゴロウの仲間がわずかに得られたただけでした。



裏磐梯長井川（流入河川）でのサンプリング



裏磐梯長瀬川（流出河川）でのサンプリング



酸性河川である酸川でのサンプリング



酸川で得られたサンプル（オナシカワゲラ類）